

R5-04

警察との連携及び体験を重視した交通安全教室

- 管内 空知管内
- 分類 通学路の点検 交通安全教室 安全教育 その他（ ）
- 教育課程 教科（ 科） 道徳 総合的な学習（探究）の時間 特別活動
- 校種 小学校（低） 小学校（中） 小学校（高） 中学校 高等学校
- 取組のポイント

- 1 全校生徒を対象とする警察と連携した交通安全教室の実施
- 2 パトカーや大型バスを用いた体験型の活動

取組の実際

ねらい

- 警察と連携した交通安全教室を実施することにより、生徒の交通法規の遵守及び交通安全意識の向上を図る。
- 体験型の活動を取り入れることにより、生徒が、周囲や自身の身の安全を確保するとともに、校外において的確に対応する意識を高める。

内容

1 警察職員からの講話と「ひまわりの絆プロジェクト」

警察職員による自転車や歩行者の安全に関する講話を聞き、事故に対する危険回避への意識の向上を図った。また、講話では、平成23年に京都府で交通事故によって亡くなった男子の子の話を知るとともに、講話の最後に、「ひまわりの絆プロジェクト」として生徒が警察職員から、生前男子の子が大切に育てていたひまわりの種を受け取り、交通事故防止への意識を高めた。



【講話の様子①】



【講話の様子②】



【ひまわりの種の授与】

2 警察による体験型の交通安全教室の実施

生徒に事故の危険性を体感してもらうため、警察署と連携し、次の体験型の交通安全教室を実施した。

- ・シミュレーターを用いた「自転車安全テスト」の実施
- ・生徒がパトカーに乗車し、「車両からの死角」を体験
- ・大型バスによる、巻き込み事故の原因となる「内輪差」の実演



【シミュレーター体験】



【車両からの死角体験】



【内輪差の実演】

成果と課題

- 講話及び体験型の交通安全教室の実施により、生徒の交通安全意識を高めることができた。
- 生徒が主体となり、保護者や地域住民と連携した、交通安全の啓発に向けた取組を推進する必要がある。